

横浜市立釜利谷南小学校
令和4年度 豊かな心の育成推進プラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標
<p>○夢や希望や目標をもち、それに向かって努力を重ね、認め合い、語り合える学校にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を図りながら、児童が友達とのコミュニケーションを大切に、学習の楽しさを実感し、主体的に問題解決を進めていくような学習展開を図ります。 ・児童一人ひとりが自己肯定感・有用感をもち、楽しく学校生活を送りながら、夢や希望を語り合える学校にします。 ・学校中に挨拶や笑顔や歓声があふれ、豊かな心や、健やかな体を育成する学校にします。 ・家庭や地域の教育力を学校に取り込むことを通して、進んでまちとかかわり地域とともに生きる児童を育てます。

(2) 「豊かな心の育成」に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
「心」を大切に した教育	あいさつをすすんで行い、同学年・異学年の友達とすすんでかかわり、自分や友だちを大切に する気持ちを育てます。	<ol style="list-style-type: none"> ① 自分から「すすんであいさつする」ことを重点的に意識して、あいさつ運動を年間を通して行います。 ② 縦割り活動を年間を通して行うことで、思いやりの気持ちを育みます。 ③ 道徳科で学習したことが日常につながるよう、指導計画、授業展開、掲示物等の工夫をします。 ④ 国際理解教室の IUI と連携しながら、多文化の理解と共生について子どもたちと考えていきます。
担当	児童支援委員会	

2 児童（生徒）の実態（「豊かな心の育成」にかかわる課題）

本校の児童は、素直で決められたことはきちんとやる児童が多く、また「話したり、聞いたりして、人とかかわることが好き」と答える児童も多い。一方で、生活や学習の場面では、自分の考えを書いたり話したりして伝えることに苦手意識をもち、人との関わり方の弱い面も見られる。また、自己肯定感が低く、「自分のよいところはない」と考える児童もいる。そのため、互いに学び合う中で、自己表現し、交流する力を身に付けることで、成功体験を積み、自己肯定感を高めていく必要がある。

本校では、継続的にあいさつ運動をしてきており、朝の校門での挨拶が増えていたが、ここ数年の感染症流行による大きな声を出して挨拶ができないことに加え、児童による集会や啓発運動が行いづらい状況にあり、挨拶する子としない子との差が顕著になってきている。挨拶は大切な習慣であることから、感染症の収束状況を見ながらあいさつ運動の取組を再開していく予定である。

本校でも、外国籍や外国につながる児童が増加する傾向にある。子どもたちは国籍等に関係なく仲良く学校生活を行っているが、今後生活習慣や言語等の違いによる困難さが生まれる可能性がある。そこで、子どもたちが異文化を認め、互いに共生していこうとする心情を養っておく必要がある。

3 「豊かな心の育成」に関する具体的取組

【人権教育】 「だれもが」「安心して」「豊かに」

- ・人権週間等「人権」に関する取組を公開し、子どもが様々な人とかかわりを持ち、考えを広げ、普段の授業や学校・家庭生活に積極的にかかわってもらえるよう家庭への協力を呼びかけていきます。
- ・「自ら進んであいさつする」を年間の重点目標とし、あいさつ推進のための「ニレの木あいさつ運動」週間を実施してあいさつの定着を図ります。
- ・友達を意識した言葉遣いを推進するため、「ふわふわ言葉」の奨励・定着を図ります。
- ・いじめが起らないような学級風土づくりについて研修を行います。また、いじめの早期発見のため、生活アンケートやYPアセスメントを行い活用していきます。
- ・外国籍や外国につながる児童の増加にともない、国際理解教室の IUI と連携しながら、多文化理解と共生の視点をもって、外国の文化や生活習慣等への理解を深めるとともに、互いを認め合い安心して日々を過ごすことができるようにします。

【自分づくり教育（キャリア教育）】

- ・6年生がリーダーとなって縦割り活動を行い、高学年のリーダーとしての役割意識、グループ内で互いを思いやる気持ち、協力しようとする気持ちを育てます。また、異学年との関わりの中で、一人ひとりの自己有用感を高めます。
- ・釜南パスポートに6年間のポートフォリオを蓄積するとともに、子どもたちが自分の成長を実感し、将来の自分の姿を考えることができるようにします。

【道徳教育】 特別の教科道徳を要とした学校の教育活動全体を通じた道徳教育

- ・全学級の道徳科授業を家庭・地域（年1回以上）に公開することで、学校の取組を発信します。
- ・懇談会等で、道徳の授業について話し、家庭との共通理解を図り、様子を家庭へ知らせていきます。
- ・日々の児童指導や、特別の教科道徳での学習等を通して、日常の自他の言動を振り返るなど、子どもの心を耕していきます。

【『横浜の時間』】 地域材を活用した学習活動

- ・地域や社会、自然等と触れ合う豊かな体験活動を取り入れ、保護者や地域の方に一緒に参加していただく機会を増やし、豊かなかかわりの中で、思いやりの心やコミュニケーション能力を育てます。
（まち探検、公共施設の利用や施設を利用している人との交流、米作り、薫なえ、家庭科支援、図書室支援等での協力等）
- ・日本の文化や伝統（尺八、琴等）に触れる学習を設定します。
- ・「SDG s」を意識することで、自分の生活だけが豊かになるのではなく、だれもが平等に豊かな生活が送れるよう暮らしを創ろうとする心情を育てます。
- ・「ニレの木スタディフェスタ（学習発表会）」を実施して、本校児童だけでなく、保護者・地域に公開することで、学校の取組を目に見える形で発信します。